

## 全校集会 学校長の話（2026年5月11日）

- おはようございます。きょう5月11日は、大阪府が定める「いじめ・いのちについて考える日」です。本校では独自に3回行っているのですが、これが2回目ということになります。校長として、皆さんに少し時間をもらって、話をさせてください。
- 中国の『論語』という古い書物に、こんな言葉があります。  
**「己の欲せざる所、人に施すこと勿れ」**（己所不欲 勿施於人）  
自分がされて嫌なことを、人にしてはいけません。とてもシンプルですが、とても重い言葉です。だからこそ、二千五百年の間、受け継がれてきたのだと思います。
- ただ、ここで、もう一步踏み込んで考えたいんです。「自分がされて嫌なことは、人にしない」。これは、その通りです。では逆に、自分がされても平気なことは、人にしてよいのでしょうか。違いますよね。ここが、本当に大事なところなんです。
- 自分が平気でも、相手は傷つくことがある。同じ言葉、同じ行動でも、感じ方は人によって全然違うからです。
- たとえば、「いじってるだけやん」、「ノリでやってるだけやん」、「本人も喜んでるやん」・・・そういう言葉を聞くことがあります。でも、本当にそうでしょうか。喜んでるように見える顔の裏で、家に帰って泣いているかもしれない。その場では笑っていても、本当は心の中で「やめてほしい」と思っているかもしれない。  
痛むかどうかを決めるのは、やった側ではありません。受けた側です。
- そして、これは教室の中だけの話ではありません。SNSの中でも、まったく同じです。  
相手が「やめて」と言っているのに、続ける。「自分やったら別に平気やし」と思って、続ける。「冗談やん、なんでそんな怒るん」と笑って、続ける。でも、相手はずっと、「嫌だ」と言っている。そのことに気づけるかどうかです。
- 「自分の物差し」ではなく、「相手の物差し」で考える。二千五百年前の言葉が、本当に伝えたかったのは、たぶんそういうことかと、僕は思っています。
- そして、皆さんに、ひとつ、伝えておきたいことがあります。僕がこの学校に来てから、繰り返し「いじめは絶対に許さない」と言ってきたのには、理由があります。この学校にも、過去に、いじめをめぐるつらい出来事がありました。それを軽々しく語ることはしません。けれど、僕が集会でここに立って話すとき、その重さは、いつも僕の背中に背負っているつもりです。
- だから、僕は何度でも、皆さんに同じことを伝えます。  
自分を大切にすること。隣にいる人を大切にすること。  
「隣にいる人」というのは、すぐ横の席の友だちだけのことではありません。同じクラスの仲間、同じ学年の仲間、そしてこの北稜中で出会うすべての仲間のことです。この学校で、皆さんと同じ時間を過ごしている、すべての人。それが、「隣にいる人」です。しつこいくらい、言ってきました。これからも言い続けます。  
これが、人として生きていく上で、いちばん大事なことかと、僕は信じているからです。
- そして、もうひとつ。自分が傷ついたとき、「助けて」と言ってい、ということです。「助けて」は、弱さの言葉ではありません。強さの言葉です。一人で抱え込まないでください。  
担任の先生でも、保健室の先生でも、スクールカウンセラーでも、僕のところでいい。誰でもいい。声を出してくれたら、僕たちは必ず受け止めます。すぐに全部を解決できないことがあっても、絶対に一人にはしません。
- 人の命は、たった一つです。自分の命も、隣にいる人の命も、たった一つしかありません。取り戻すことはできません。だからこそ、自分も、隣にいる人も、大切にしてほしい。これが、「明日も来なくなる学校」につながっていると思います。  
そういう学校を、僕は皆さんと一緒につくりたい。以上です。